

N K H

長岡市立科学博物館報

No. 45 1984



昆虫相をしらべる会特集

N K H

45号



▲乙吉コースの林道



バス停で調査票を記入する会員 ▲



▲昭和57年(浦瀬コース)第1回の参加会員

表紙写真●●・

オオヒカゲがたくさんいたヤナギ林の中  
(乙吉コースで: 20/11月, 1981)

昆虫相をしらべる会特集号

1984年3月

## 長岡東山山麓の昆虫

樋 熊 清 治  
山 屋 茂 人

### 〈はじめに〉

長岡市は、市域のほぼ中央部を南から北に貫流する信濃川によって二分される。川の西方に広がる西山は低い丘陵であるとともに、海が近いという位置的な関係もあって暖地系の生物が豊富である。一方、東山と呼ばれる東側の丘陵に生息する種には、越後山脈の生物相に影響された高地系の山地種が多く目立つ。

西山の昆虫相については、昭和53・54年度に調査し、その結果は先年すでに報告した(N K H, No.37, 1980)。今回の調査は、昭和55年から57年にわたる3年間に行つたもので、東山山麓に隣接して位置する宮路町(1980)、乙吉町(1981)、浦瀬町(1982)の各集落の背後地をこれまで通りの方法で行ったものである。

この「昆虫相をしらべる会」は、長岡市立科学博物館が主催し、市内外から集まつた会員によって行われる。今回の報告も、参加者から提出された「採集品リスト」を集計したもので、多くの皆さんにお礼の気持をこめて作成した。ただ残念なのは、紙幅の関係で、調査種を全部載せることができなかったことと名簿を割愛しなければならなかつたことを深くお詫びしなければならない。

(表紙デザイン: 本間正三)

## 〈調査のし方〉

しらべる会は4月から10月まで毎月1回(第3日曜)とし、降雨のときは中止した。

種の同定は現地で筆者らが行い、参加者は調査票に種名と個体数を記入して提出する。調査票に記録した未同定の「○○のなかま」などはこの報告から除外した。また、幼虫は成虫の出現期を推定しようとする場合の混乱をさけるため未同定種に準じて外した。

## 〈地形と植生〉

今回行った地域の海拔高は、30m(各集落)から320m(樅峠)の間にある。宮路町と乙吉町の調査コースは主として乙吉川の沢筋であるが、浦瀬町のコースは沢の中腹をぬって峠に至る県道を往復した(図1)。

これらの地域の植生は、スギの植林地を除けば、クリコナラ域に含まれる。林床には、ヤマツツジ、ユキツバキ、チマキザサが多い。西山丘陵の植生が、アカマツ林に代表されるのに対して、この地域はコナラを主とする二次林である。しかし、特に特徴のある林相は見られない。

## 〈わかったこと〉

### 1. 種類数

昆虫群全体を調査の対象にしたが、トンボ類、チョウ



図2. チョウやトンボは三角紙に包む

類、カミキリムシ科の昆虫については、特に力を入れて調査した。その結果、トンボ類40種、チョウ類52種、カミキリムシ科は41種で、そのほかの部門はコガネムシ科の27種を含む133種の生息を知ることができた。なお、末尾の集計表に登載できなかった種は、9類(目)180種である。西山調査の際に配慮したトンボ類(36種)とチョウ類(43種)の種類数を比較すると、トンボ類は4種、チョウ類は9種多く、東山の昆虫相が西山よりいくぶん優っていることがわかる。

### 2. トンボ類

カワトンボは各沢々の流水に多いが、特に乙吉川の上流域には多産する。また、この水域で、古生代の地層から化石で見つかるトンボとあまり変わらないことで有

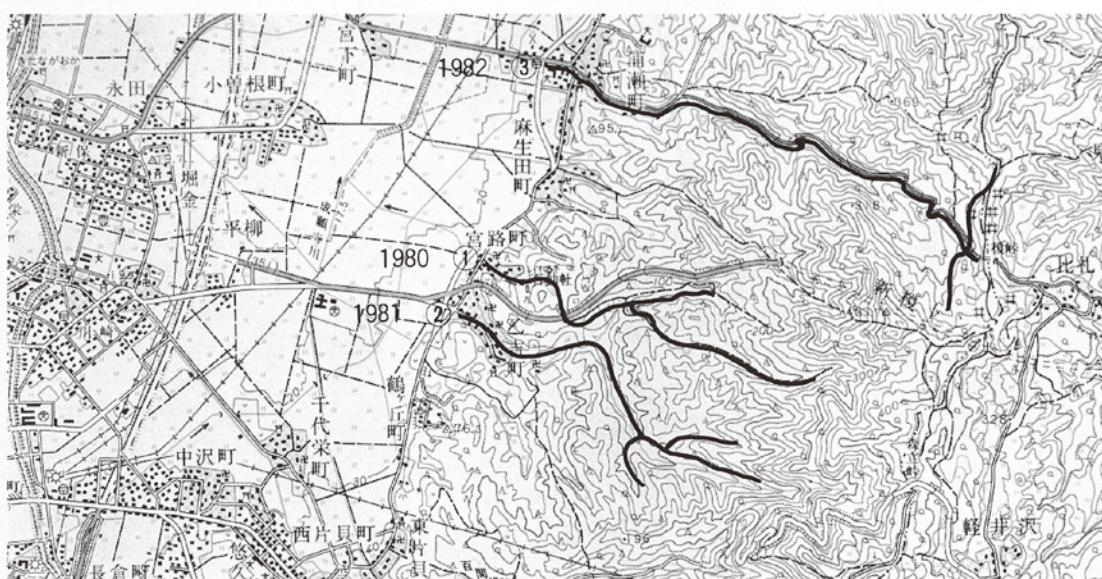


図1. 調査コースの位置



図3. はじめて見たムカシトンボ



図4. ムカシヤンマもたくさんいた

名な“化石昆虫”的ムカシトンボが採集された。筆者の一人山屋は、昭和56年の第1回(17/V)のしらべる会で1個体♀を採集し、翌週あらためて単独でかけ、この流域に多産することを確めた。翌57年には、松崎大二君(東中3年)が榎峠の小沢でも2個体(16/V, 20/VI)を採集したことから、この地域の上流域には高い密度で発生していることが推測される(図3)。

ムカシトンボに次いで古い形質をもつムカシヤンマもこの地域一帯に多く、5月中旬から6月中旬まで林道上でかなり見かけることができる(図4)。



図5. コシボソヤンマがすむ乙吉川

モイワサナエは本来山地性の種で産地はかなり限られるが、宮路町の側溝に多産することが明らかになった。山屋は高校生のころからこの産地を知っていたもので、今回のしらべる会で産地が健在であることが確かめられた。

ヒメクロサナエも山地性の少い種であるが、この地域の細流にはかなり発生していることがわかった。

サラサヤンマ、ミルンヤンマも少い種であるが、近年極端に減少したコシボソヤンマが、乙吉川の中流域に多産する場所が発見された。最初の採集(19/VII)は大森広樹君(大島小4年)で、その後、山屋の再調査によって多産することが確かめられた。県内ではただ一つの確実な産地としておおいに注目されよう(図5)。

### 3. チョウ類

西山に記録されながら、東山から報告できなかった種のうち、オスジアゲハのような遇産チョウを除いたスジボソヤマキチョウ、エゾスジグロチョウ、ヒメウラナミシジミ、ヤマトシジミ、オオムラサキ、ヤマキマダラヒカゲの6種は、東山にも分布を予想できる種である。しかし、今回の調査では全く姿を見せなかつたことから、年度差を考慮に入れても、東山には発生数が少い種として考えられ、一つの地域性としてとらえることができる。

西山丘陵に分布するイチモンジチョウの翅表紋には消失する傾向が見られることをすでに報告した(1980)。それで、東山地域のものとの対比を考えていたが、今回の調査で得られた45個体には、そのような変化はほとんど認められなかつた。

ギフチョウは3コースのうち、乙吉・浦瀬コースに多いことがわかつた。県内産のものはナカムラギフチョウ(亜種)と呼ばれたこともある黄帶の広い型である。卵は林床に生育するコシノカンアオイの新葉裏面に産みつけられるが、幼虫は令が進むと古い越冬葉も食べてしまう(図7)。

### 4. カミキリムシ科

カミキリムシ科の同定は山屋が担当し、生活場所や採集方法など、相(ファウナ)の解明に役立つ技術的な面に重点をおいた。3年間で41種を調査したが、年度別の内訳は、初年度の宮路コースでは14種、第2年度の乙吉コースでは12種、第3年度の浦瀬コースでは32種を得ることができた。種類数を見るかぎりで



図6. 県内では初めてのルリカミキリ

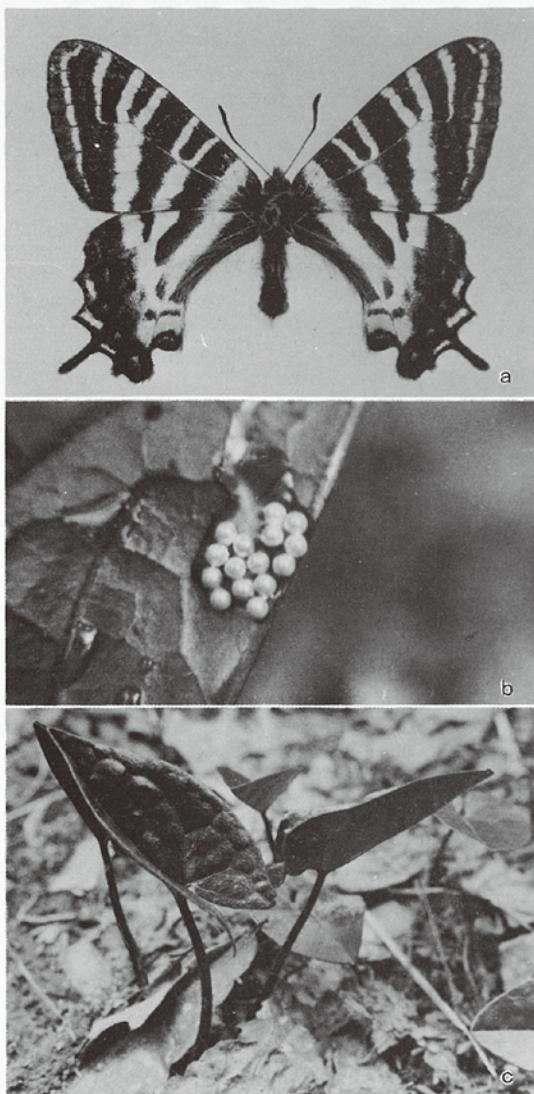


図 7. ギフチョウと卵とコシノカンアオイ

は、浦瀬コースの場合が断然多いように思われる。しかし、この差によってカミキリムシ相の優劣を速断することは適当でない。採集法の習熟度も要因の一つとして大きなウェートを占めていると思われる。また、その年度における調査方針の持ち方も参加者の活動をある程度拘束する結果にもなりかねない。したがって、このような数字の差で統計的な結論を求めるわけにはいかないが、地形的・植生的な環境は他のコースより多様であるところから、3倍の成績はある程度、相の実態を反映していると見てよさそうである。

ハスオビヒゲナガカミキリは、県内では佐渡大倉、角田山に次ぐ3例目の記録で、中丸精一君(千手小6年)が乙吉コースの奥で採集した(19/VII)。ルリカミキリは新潟県の初記録になるもので、山屋が採集した(19/VII)(図6)。

##### 5. その他の昆虫

注目しなければならないのは、乙吉コースのコナラ林(高木林)の近くで、中丸君によってヤスマツトビナフシが1個体採集されたことである(16/VIII)。この種は、ブナとミズナラの混交する生育のよい雑木林から得られることがあるが、林相の貧弱な林には望めない。

また、エゾゼミの一型である体部全体が黄褐色のエチゴエゾゼミが松崎君によって乙吉コースで2個体(16/VIII, 20/IX)採集されたことは特筆すべきことであろう(図8)。



図 8. 茶色のエゾゼミはエチゴエゾゼミだった

### 〈ま と め〉

調査地域には、大規模の雑木林はなかった。しかし、乙吉川の流域には自然が比較的よく残されていて、平野部や他の丘陵地帯ではすでに滅びたり失われようとしている種が数多く生息していることが明らかになった。例えば、汚れた流水では生活できないムカシトンボ、コシボソヤンマ、モイワサナエやヒメクロサナエの集団生息地があったり、わが国固有の種で、生命力が弱いと考えられるギフチョウ、ウスバシロチョウ、カワトンボなどの貴重種がいくらでも飛んでいたり、全国的にも稀なカミキリムシが発見されたりした。

このような種は、生物地理学の方面では高く評価されるもので、市街地に近い位置にありながら大戦前の状態で残されていた自然があることを、信じられない思いのまま、この報告を結ぶことにする。自然破壊が限りなく進行する社会環境の中で、地元住民の協力を得て長く現状を保存することができたらと、調査に参加した多くの会員とともに希望を述べて関係者の理解を期待することにしたい。

表 1. 長岡市東山山麓の昆虫相調査成績



目	科	種	20 <sub>IV</sub>	18 <sub>V</sub>	15 <sub>VI</sub>	20 <sub>VI</sub>	21 <sub>VII</sub>	26 <sub>X</sub>	計	17 <sub>V</sub>	21 <sub>VII</sub>	19 <sub>VIII</sub>	16 <sub>IX</sub>	20 <sub>X</sub>	18 <sub>X</sub>	計	18 <sub>IV</sub>	16 <sub>V</sub>	20 <sub>VI</sub>	18 <sub>VII</sub>	19 <sub>X</sub>	17 <sub>X</sub>	計	
	ゴミムシ	131) クロオサムシ 132) アオマイマイカブリ 133) オケサマルクビゴミムシ 134) オオゴミムシ 135) ルイスナガゴミムシ 136) キンナガゴミムシ 137) オオナガゴミムシ 138) オオクロツヤヒラタゴミムシ 139) ハラアカモリヒラタゴミムシ 140) ルリヒラタゴミムシ 141) マルガタゴミムシ 142) ゴミムシ 143) スジアオゴミムシ 144) アオゴミムシ 145) ヒメキベリニアオゴミムシ 146) クロヒゲアオゴミムシ 147) キボシアオゴミムシ 148) アトワアオゴミムシ 149) ヤホシゴミムシ 150) ヨツボシゴミムシ 151) ニッポンヨツボシゴミムシ 152) アオアトキリゴミムシ 153) ヒメアトキリゴミムシ 154) フタホシスジバネゴミムシ 155) クロズマメゲンゴロウ 156) マメゲンゴロウ 157) シマゲンゴロウ 158) ミズスマシ 159) ヨツボシモンシデムシ 160) コクロシデムシ 161) オオヒラタシデムシ 162) コクワガタ 163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	1	2 1	2 1	4	8 2	1	1	1	1	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	29 1	6	1	36 1	1	1
	ゲンゴロウ	150) ヨツボシゴミムシ 151) ニッポンヨツボシゴミムシ 152) アオアトキリゴミムシ 153) ヒメアトキリゴミムシ 154) フタホシスジバネゴミムシ 155) クロズマメゲンゴロウ 156) マメゲンゴロウ 157) シマゲンゴロウ 158) ミズスマシ 159) ヨツボシモンシデムシ 160) コクロシデムシ 161) オオヒラタシデムシ 162) コクワガタ 163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	2	3	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ミズスマシ ジデムシ	155) クロズマメゲンゴロウ 156) マメゲンゴロウ 157) シマゲンゴロウ 158) ミズスマシ 159) ヨツボシモンシデムシ 160) コクロシデムシ 161) オオヒラタシデムシ 162) コクワガタ 163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	4	2	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	クワガタムシ	163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	2	1	1	3	1	1	2	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	
	センチコガネ	163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	
	コガネムシ	163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	1	2	1	75	8	4	83	4	2	1	4	4	4	10	5	1	7	3	2	7	3	
	タマムシ	163) スジクワガタ 164) ノコギリクワガタ 165) ミヤマクワガタ 166) センコガ 167) オオセンチコガ 168) アシナガコガ 169) ヒメビロウドコガ 170) ビロウドコガ 171) クロコガ 172) ナガチャコガ 173) カブトコム 174) コカブト 175) マメブコガ 176) コイチヤコガ 177) コガネジコガ 178) オオスジコガ 179) スジコガ 180) ドウガネブイブ 181) ヒメコガ 182) ツヤコガ 183) セマダラコガ 184) コアオハナムグ 185) ムラサキツヤハナムグ 186) ヒラタハナムグ 187) カナブ 188) アオカナブ 189) クロカナブ 190) シロテンハナムグ 191) クロハナムグ 192) ハナムグ 193) アオハナムグ 194) トランハナムグ 195) ウバタマム 196) ムツボシタマム	1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	



## 昭和58年度事業報告

### 資料収集・調査

#### 〔植物研究室〕

- 植物分布調査 十日町市：6月，7月，8月（2回）  
古志郡山古志村：7月，8月  
刈羽郡小国町：9月  
北魚沼郡入広瀬村：10月  
南魚沼郡湯沢町：11月

- 研究協議 新潟市：2月，3月

#### 〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 南魚沼郡湯沢町：5月，6月（2回），7月（2回），8月  
北魚沼郡入広瀬村：10月  
栃尾市：11月

#### 〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 南蒲原郡下田村：5月  
村上市：6月（2回）  
南魚沼郡湯沢町：6月  
見附市：7月，8月（6回）  
三島郡出雲崎町：8月（2回），9月，10月，11月，12月（2回），1月（4回），2月（2回），3月  
北魚沼郡入広瀬村：10月  
栃尾市：11月  
岩船郡粟島浦村：3月
- 研究協議 新潟市：2月，3月

#### 〔考古研究室〕

- 遺跡調査 栃尾市：8月  
西蒲原郡巻町：8月，9月，3月（2回）  
三島郡寺泊町：9月  
新発田市：11月  
北魚沼郡入広瀬村：3月  
三条市：3月
- 研究協議 新潟市：3月

#### 〔歴史民俗研究室〕

- 民俗調査 南魚沼郡大和町：5月  
刈羽郡高柳町：7月  
中魚沼郡津南町：8月  
柏崎市：11月

#### 学会・研修会・協議会

- 新潟県博物館協議会総会 4月14日，新潟市（参加：鈴木館長）
- 日本考古学協会 5月1・2日，東京都（参加：駒形学芸員）
- 新潟県民俗学会 5月22日，新潟市（参加：鈴木館長）

- 北信越博物館研究協議会 5月27・28日，長野市（参加：鈴木館長）

- 新潟県野鳥愛護会総会 6月4・5日，中魚沼郡津南町（参加：渡辺学芸員）

- 新潟県博物館協議会運営研究会 6月13・14日，村上市（参加：鈴木館長・駒形係長）

- 地学団体研究会総会 8月1・2日，小千谷市（参加：加藤技師補）

- 新潟県生物教育研究夏期研修会 8月18・19日，長岡市（参加：西山館長補佐，渡辺学芸員，山屋技師補）

- 日本第四紀学会 8月24・25日，静岡市（参加：加藤技師補）

- 新潟県民俗学会 9月10・11日，東頸城郡松之山町（参加：鈴木館長）

- 新潟県博物館協議会役員会 9月16日，新潟市（参加：鈴木館長）

- 日本民俗学会 9月30日～10月2日，名古屋市（参加：鈴木館長）

- 全国博物館大会 10月13・14日，新潟市（参加：鈴木館長，西山館長補佐，渡辺・駒形学芸員，佐藤主事，山屋・加藤技師補）

- 日本鞘翅目学会 11月20日，東京都（参加：山屋技師補）

- 日本地質学会第91年学術大会 3月29・30日，東京都（参加：加藤技師補）

#### 普及活動

- 地層をしらべる会

7月29日 真木林道周辺 参加者9人。9月11日 金倉山 参加者12人。

- 早春の植物を観察する会

4月24日 風谷山周辺，講師：植物研究家 坪谷富男先生，参加者32人。

- 雪椿さし木講習会

7月10日 悅久山公園，参加者3人。

- 親と子の夏の植物観察会

7月24日 八方台周辺，講師：栃尾市立下塙谷中学校教頭 笹岡 茂先生，参加者26人。

- キノコをしらべる会

10月16日 東山ファミリーランド周辺，講師：長岡技術科学大学 宮内信之助先生，参加者93人。

- 雪国植物の越冬を観察する会

11月27日 東山ファミリーランド周辺，参加者15人。

3月25日 同，講師：高志高校教諭 牧野恭次先生，参加者17人。

## ◦ 昆虫相をしらべる会

栖吉町・城山周辺に分布する昆虫類の生息状態を調査する。

講師：昆虫研究家 橋熊清治先生。

5月15日 参加者29人。7月29日 参加者30人。8月21日 参加者10人。9月18日 参加者13人。

## ◦ 野鳥相をしらべる会

親沢町～大積町周辺の野鳥類の生息状態を調査する。

4月24日 参加者21人。5月22日 参加者19人。6月26日 参加者11人。7月24日 参加者15人。8月28日 参加者13人。9月25日 参加者14人。10月23日 参加者3人。11月27日 参加者6人。

## ◦ 野鳥集会と西山探鳥会

5月28・29日 大積灰下町～赤池周辺 講師：長岡野鳥の会 渡辺弘雄・井口忠先生、参加者32人。

## ◦ バード・ウイーク信濃川探鳥会

5月15日 信濃川左岸（長生橋下流）、講師：長岡野鳥の会 井口忠先生、参加者41人。

## ◦ 大河津分水探鳥会

10月30日 大河津分水右岸（公園上流）、講師：長岡野鳥の会 井口忠先生、参加者12人。

## ◦ 冬鳥さよなら探鳥会

3月18日 信濃川右岸（長生橋上流）、講師：長岡野鳥の会 井口忠先生、参加者23人。

## ◦ 第32回生物標本展示会・第25回自然科学写真展示会

10月4日～10日（会場）中央公民館大ホール 出品者数404人、出品点数9,671点。

## ◦ 第20回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月10日（会場）中央公民館第2教室（発表）小学生の部 10題。中学生の部 3題。高校生の部 4題。

## ◦ 科学博物館講演会

11月19日 中央公民館第2教室 演題：新潟県の古墳文化 講師：新潟大学教授 甘粕健先生。

考古研究室の報告 岩野原遺跡発見の特殊住居跡について 駒形敏朗。

## 出版物

## ◦ 館報（NKH）

第44号 生物研究発表会特集 500部

第45号 昆虫相をしらべる会特集号 500部

## ◦ 博物館研究報告 第19号

・信濃川の河辺植物（第5報） 西山邦夫・荒井キミ

・新潟県湯沢町八木沢のコメツキムシ 岸井尚 山屋茂人

・新潟県湯沢町八木沢の甲虫（第1報） 山屋茂人

・粟島とその近海の鳥類 渡辺央・千葉晃 宮越一俊・小野島学・風間辰夫

## ◦ 新潟県における縄文早期・前期の研究 駒形敏朗

・石原正敏・小熊博史

## ◦ 彫刻僧西願寺常光院 鈴木昭英

## 歴史民俗資料の寄付による市教育委員会表彰

市内福島町堀原保様より歴史民俗資料1,062点の御寄付をいただいた。長岡市教育委員会表彰基準に基づき、11月15日、「多数の歴史民俗資料を寄付された功績」により感謝状が贈られた。

## ◦ 刀匠藤原兼宗初・二代の遺品寄付による市長表彰

市内豊2丁目金内梅野様より刀匠藤原兼宗初・二代の遺品143点の御寄付をいただいた。長岡市表彰条例に基づき、「文化財の保存と活用に深い理解を示された」ことで、市長より感謝状が贈られた。

寄贈品の内容は次のようである。

1. 刀剣類	11点
2. 刀鍛冶道具類	18点
3. 鍛刀参考書ならびに刀剣押形集	40点
4. 古文書ならびに萬年帳	20点
5. 拝領品	3点
6. 趣味関係図書	42点
7. 参考品	9点

## 昭和58年度月別入館者数（昭和58年4月～59年3月）

月別	個人				団体				資料照会	
	大人	小人	団体数	大人	団体数	小人	大人	小人		
58. 4	343	398	1	90	16	1,424	5	—		
5	520	315	2	69	77	6,897	22	—		
6	353	301	4	179	7	1,013	36	4		
7	311	300	6	157	1	58	29	2		
8	650	730	8	144	1	18	58	61		
9	301	350	4	53	2	98	118	38		
10	727	553	9	192	4	306	139	5		
11	161	258	7	133	1	167	55	3		
12	207	150	—	—	—	—	18	3		
59. 1	147	102	2	67	—	—	9	1		
2	250	110	—	—	—	—	12	—		
3	317	315	—	—	—	—	18	—		
計	4,287	3,882	43	1,084	109	9,981	519	117		

## 職員の異動

## 退職（3月31日付）

小野田フミ（主事）

## 転入（4月1日付）

今井弘（管理員）神田小学校より

松崎久子（管理員）新町小学校より

## 転出（4月1日付）

野本喜三（管理員）栖吉小学校へ

**NKH** (長岡市立科学博物館報) №.4 5

昭和59年3月31日発行

---

編集・発行 長岡市立科学博物館(長岡市柳原町2番地1)  
印 刷 所 あかつき印刷(長岡市新産4丁目4番7)